

パソコンバリアフリーを目指して

パソコンボランティアプラザ室蘭・登別

「障がいを持っている人でも、パソコンやEメールという道具を使えば、普通のコミュニケーションができるのです。いわば、パソコンバリアフリーですね」

パソコンボランティアプラザ室蘭・登別（以下 ボランティアプラザ）が行っている障がい者向けパソコン利用のためのオープンサポート（支援教室）で、代表の西野美樹子さん（53）はそう話す。

月2回行われているこのサポートは、ユーザー会員（教わる会員）と同じ人数だけサポート会員（教える会員）が参加、マンツーマンで行われるのが特徴である。毎回飲物やお菓子などがふるまわれ、和やかな雰囲気で行われている。

この日は、「室蘭ぴあ 216」（障害者福祉支援センター）の一室で、ユーザー会員5人、サポート会員6人がそれぞれパソコンに向かっていた。

西野さんが直接教えている相手は、視覚障がいを持つ伊達市在住の女性（30代）。ネット上にある音声データの小説を集めたいと、一年半ほど前からサポートを受けた。

「いまチャレンジしているのは、動画投

稿サイトにある音楽をダウンロードすることです。いろいろな音楽を楽しみたいし、それに、もっと推理小説なんかも読みたいですね」

彼女は楽しそうに語ってくれた。

その隣で西野さんは、力説する。

「聴覚に障がいを持つ人は、割とパソコンを扱いやすいですが、視覚障がいの場合は、サポートがないと難しいのです。例えば、パソコン用語は横文字が多いので、『クリックする』と言われても何のことか分かりません。だから、そこから始めないといけないのです」



障がい者のためにパソコンを教えるオープンサポート

月2回のオープンサポートのほか、西野さんは月1回ほどのペースで彼女の自宅にも訪れて支援している。そのほか、パソコンのトラブルや質問などがあつた

ときは、その都度訪問しているという。

「それが苦ではありません。自分が教えるだけでなく、いろいろ教えられることも多いです。こういった活動を行う前までは、障がい者に対する活動があることすら知らなかったですし、自分自身でも社会勉強だと思っています」

西野さんは、清んだ声で語っていた。



活動が行われている「室蘭ぴあ 216」（障害者福祉支援センター）

■ 個人のペースに合わせて支援

このボランティアプラザを発足させた経緯について、ボランティアプラザの登録地区を担当する榎本吉幸さん（63）が説明する。

「室蘭市が実施していたＩＴ講習会の講師をしたことがあり、そのときに視覚障がいを持つ人がいたのです。その人のために特別指導したのですが、講習会はその場限りで終わってしまいます。そうした人をフォローしていくために、何かやらなければならないと思ったのです」そして、榎本さんは西野さんらと共に、2003年4月にボランティアプラザを発足

させた。まず始めたのが、オープンサポート。

講義形式では、それぞれのニーズが違う障がい者に対応できないと、マンツーマン方式とした。基本的に視覚障がい者には、音声ソフトとキーボード操作を教える。手に障がいがある人にはキーボードの設定変更などについて指導、聴覚障がい者に対しては筆談などで対応して、問題点を解決する。

そのうえで、会員に取り組みたいテーマをそれぞれ選んでもらい、テーマをやり遂げていくといった方式を採用しているとのこと。1対1ならば、時間をかけて、個人のペースに合わせて支援できる。

これまで、ホームページの閲覧や電子メールの送受信、ワードの使い方、音楽CDの作成などを指導してきたという。インターネットが利用できる会員には、メーリングリストを活用して、サポートや様々な情報交換をしながら学んでもらう。

「メールならば、視覚障がい者と聴覚障がい者とでも、普通に会話できるので」と、榎本さんは強調する。

オープンサポートは毎月第1土曜日に「登録しんた 21」、第3土曜日には「室蘭ぴあ 216」で、どちらも午後1時半から午後3時半まで、無料で行われている。また、月1回（第1月曜日）、高齢者向け

パソコン講座も実施している。

そのほか、訪問サポートとして、直接訪問するタイプの支援もある。ただこの場合は、交通費（1000 円）だけを受け取っているという。

■ 要約筆記やスカイプも活用

ボランティアプラザでは、2006 年から要約筆記の活動も始めている。要約筆記とは、講演会などでの話を文字化してスクリーンに映し出すシステム。聴覚障がい者や高齢者へのサポートとして広く利用されているが、道内での知名度はまだ低い。要約筆記の経験のある会員の入会がきっかけとなって、パソコンの技術を耳の不自由な人に生かせれば、と始められた。

専用ソフトを使い講演者の話を聞きながら、会員数人がそれぞれのパソコンで 1 文ずつ交互に打ち、スクリーンに映し出す。活動場所も徐々に増えており、室蘭市や登別市、伊達市での福祉行事や、病院での生活習慣病教室で実施されている。聴覚障がい者以外に、耳の遠くなった高齢者などからも、分かりやすいと好評を得ているという。

話の意味を損なわないように文章を簡略化する技術や、文字を打つ会員同士の連携も大切に練習が欠かせない。週一回ほどの割合で練習を行っている。

「1 時間ほどの講演でも、4 人で筆記

する必要があります。いま、この筆記ができるサポート会員は 10 人ほど。この技術を持った会員を増やすことが、課題でもあります」

西野さんと、榎本さんが口を揃える。

また、2010 年からは、スカイプ（インターネットを利用したテレビ電話）を使って自宅にいてもサポートを受けられる活動を行っている。

「移動するための時間を短縮できますし、いつでもサポートすることができるので、かなり有効だと思います」

榎本さんは電気関係の技師だったというだけに、新しい技術やソフトに対して敏感、役に立つものはどんどん取り入れていきたいと、意気込んでいる。



「パソコンのバリアフリーです」と、代表の西野さん

■ 若いサポート会員に期待

現在、ボランティアプラザの会員は、サポート会員が 17 人、ユーザー会員が 33 人。ユーザー会員の 3 分の 1 は視覚障がい者である。サポート会員は、80 代の男性から 10 代の高校生までと幅広い。

「ただ、17 人のサポート会員のうち、頻繁に参加できるのはその半分ほど。次の世代を育てることが今後の課題でもありますから、特に若い人には頑張って欲しいです」

西野さんは、声に力を込める。

サポート会員の一人である高校 2 年生の水野夢樹（ゆうき）君は、ネットでこの活動のことを知って、「少しでも分かりやすくパソコンを教えたい」と始めた。今年は少し参加する回数は減ったが、去年は毎回参加していたという。

水野君から、オープンサポートで手ほどきを受けている 60 代の女性は、メールに画像を付けて、それを送信するといった課題に取り組んでいた。

「親切に教えて頂いて、ありがとうございますね」と、女性は嬉しそうに言う。

そんな 2 人を、榎本さんも、西野さんも、満足げに見守っていた。



■ 連絡先

〒051-0028 室蘭市西小路町 5-13
パソコンボランティアプラザ室蘭・登別
代表 西野美樹子
TEL/FAX : 0143-23-8440
Email : nishinot@lily.ocn.ne.jp